

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 17 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26360055

研究課題名(和文)「沖縄フェミニズム」と平和構築 軍事占領と性暴力

研究課題名(英文)Okinawa Feminism and Peacebuilding: Military Occupation and Sexual Violence

研究代表者

秋林 こずえ (Akibayashi, Kozue)

同志社大学・グローバル・スタディーズ研究科・教授

研究者番号：90377010

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：米軍による性暴力の問題に取り組んできた基地・軍隊を許さない行動する女たちの会を沖縄フェミニズムの中核と位置付け、検討した。会は米軍が長期駐留する韓国や、米国本土、国連などで市民社会でのトランスナショナル・ネットワーク構築を目指す傾向が強くなってきている。そこでは新たな基地建設に抵抗する連帯とともに、基地の移設ではなく脱軍事化が追求されている。軍事占領下での米軍の性暴力については、沖縄県立公文書館で資料を見つけ、1945年以降の沖縄での米兵による性犯罪の年表を改訂した。国際的な平和構築政策に関しては、紛争下の性暴力が軍隊組織の問題という視点がさらに後退していることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：The focus of the research is placed on Okinawa Women Act Against Military Violence as a significant part of Okinawa Feminism as OWAAMV has addressed the issue of sexual violence by US soldiers stationed in Okinawa. OWAAMV has expanded further its transnational network to civil society in such areas as Korea, the US, or the UN. By strengthening the transnational network of solidarity to resist the military presence, they have offered clearer vision to pursue achievement of demilitarization rather than relocation of US military facilities.

More cases of sexual assault by US soldiers during the US occupation period in Okinawa were found in the Okinawa Prefectural Archive that are included to update the chronology of sexual crimes.

International Peacebuilding policies of are found not to have developed an analysis of sexual violence and the military in addressing the problem of sexual violence in armed conflicts.

研究分野：ジェンダー

キーワード：軍事占領 性暴力 平和構築 フェミニスト平和運動 トランスナショナル・ネットワーク

### 1. 研究開始当初の背景

フェミニスト平和研究・国際関係論は、主に英語圏において、国際政治における性差別・ジェンダー差別を可視化し、ジェンダー秩序が武力紛争の根底にあると論じてきた。そして、フェミニスト平和運動と呼びながら、戦時性暴力あるいは武力紛争下の性暴力を研究対象とすること成功した。現実の国際政治においては、運動が先行し、武力紛争下の性暴力に対処するための活動を組織的に展開した。このような国際機関への働きかけは、武力紛争下の性暴力を人権レジームでの課題とした。さらに、紛争の根絶を目指して、武力紛争下の性暴力を平和安全保障の言説と政策に導入することに成功し、一連の女性・平和安全保障アジェンダ(Women, Peace and Security, WPS アジェンダ)が国連で取り上げられるようになった。しかし、その中で WPS アジェンダは、紛争の根本的原因とフェミニスト平和研究が指摘したジェンダー秩序と軍事主義の問題には直接は触れず、武力紛争下の性暴力という現象への対処に平和構築政策の主眼が移っている。

### 2. 研究の目的

「沖縄フェミニズム」は本研究プロジェクトがそれぞれの研究分野(フェミニスト平和研究、女性史、沖縄研究)において展開を試みてきた概念である。それは米軍長期駐留地域である沖縄における女性平和運動が確立してきた“ジェンダー暴力、軍事主義、植民地主義”批判のフェミニズムであり、国際フェミニスト平和運動においても一定の認知を得ている。本研究は、沖縄のフェミニスト平和運動と他の米軍駐留地域のフェミニスト平和運動、また米軍占領下の沖縄での米兵による性暴力に関して実証研究を行いながら、平和への志向性が強い「沖縄フェミニズム」より深く考察し、またそれによってポスト紛争の平和構築へのジェンダー視点の効果的導入への示唆を得ることを目的とした。

### 3. 研究の方法

本研究では「沖縄フェミニズム」を、フェミニスト平和研究、沖縄近現代女性史の分野から学際的に検討した。その方法は、主に以下の2つの分野、沖縄近現代史、沖縄研究、フェミニスト平和研究、国際関係論、において、ジェンダーの視点とポスト・コロニアリズムの視点から、沖縄のフェミニスト平和運動や沖縄の女性の経験を検証するものである。

その過程では、米軍占領下の性暴力と沖縄の女性平和運動が構築してきたフィリピン、グアム、ハワイなど米軍駐留地域の女性運動、平和運動とのトランスナショナル・ネットワークも調査した。

さらに朝鮮半島の平和を求めるトランスナショナル・フェミニスト平和ネットワーク、Women Cross DMZ とのつながりが構

築し、平和構築の射程を広げた。

これらのトランスナショナル・フェミニスト平和運動ネットワークへの基地・軍隊を許さない行動する女たちの会の参加と関与について観察と資料収集を行った。

また、平和構築も含めた国際平和保障政策への「沖縄フェミニズム」の導入の検討のため、国連や国連でロビー活動を行っている国際女性平和運動の調査を実施した。

### 4. 研究成果

「沖縄フェミニズム」の中核となっている基地・軍隊を許さない行動する女たちの会は、1995年以降、それまでも取り組んできた米軍による性暴力を平和安全保障の問題として提示してきた。本研究プロジェクトでは、米軍占領下での性犯罪について沖縄県立公文書館で資料収集を行い、米軍による捜査の様子なども含めた資料を見つけることができた。これによって、基地・軍隊を許さない行動する女たちの会が作成を続けている『沖縄・米兵による女性に対する性犯罪』年表の改訂を進めることができた。

近年、基地・軍隊を許さない行動する女たちの会は米軍が長期駐留する韓国や、米国本土、国連などで、市民社会でのトランスナショナル・ネットワーク構築を目指す傾向が強くなってきていることを明らかにした。そして、そのような傾向がより明確な脱軍事化と脱植民地支配という主張を強めていることもまた明らかにした。新たな基地建設に抵抗する活動においては、基地の移設ではなく脱軍事化の追求こそを目指すという議論を維持しているが、その背景には、直接の紛争下ではない軍事占領下から続いてきた米軍の性暴力を軍隊に女性蔑視と性差別が内在するという分析があり、さらにその軍隊によって担われる安全保障政策への批判がある。

国際的な平和構築政策における武力紛争下の性暴力に関しては、国連や国連の活動と連携して活動している市民社会において、武力紛争下の性暴力の可視化が進められていることが確認できた。また、ポスト紛争の社会再建のための政策である平和構築に、女性の参加を求める市民社会のネットワークが新たに構築されていることも確認された。また、WPS アジェンダの国連安保理決議が複数、採択され、それらのモニターする市民社会の仕組みが構築されつつあることもまた、確認することができた。

しかし、国連も市民社会もその焦点は武力紛争下の性暴力にどのように対処するか、という点であり、紛争の根本的原因とジェンダー秩序という視点は後退してきている。また、平和構築への女性の参加を求めているが、女性が政治や意思決定の過程から排除されている構造への分析は必ずしも明確にされてはいない。

武力紛争下の性暴力という問題そのものは、現在でも続いているだけではなく、激化し

ている地域もある。沖縄フェミニズムが提示してきた軍隊に内在する女性性蔑視と性暴力という分析から、現在の平和構築政策の焦点は離れてきており、紛争下ではない状況での軍隊の性暴力についての研究と分析が平和構築において必要であることが本研究プロジェクトでは明らかになったといえる。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4 件)

1. 秋林こずえ「議政府・沖縄・江汀 軍事基地に抵抗する女たち」『抗路』162-169、2016年12月 査読無し。
2. 秋林こずえ「基地・軍隊 ジェンダーの視点から抗する」『現代思想 総特集・辺野古から問う 現場のリアル』154-159. 2月臨時増刊号、2016、vol.44-2 査読無し。
3. 秋林こずえ「米軍内での性暴力と闘う」『女性・戦争・人権』学会学会誌13号、108-114、2014年、査読無し。
4. 秋林こずえ「ジェンダーの視点と脱植民地の視点からの安全保障 軍事主義を許さない国際女性ネットワーク」『平和研究』43号、2014年10月。査読無し。

[学会発表](計 5 件)

1. Akibayashi, Kozue “Ending War and Patriarchy “ World Beyond War Conference, American University, Washington DC, USA. September 23, 2016.
2. Akibayashi, Kozue “Creation of Peace, and Women: Jeju from a Global Perspective” 2<sup>nd</sup> Anniversary International Women and Family Policy Forum “Peace, Women and Future in Jeju”. Jeju City, South Korea, June 23, 2016.
3. 秋林こずえ 「世界の紛争下における性暴力の課題」立教大学ジェンダーフォーラム、立教大学、東京都、2016年5月20日
4. Akibayashi Kozue “War, the Human Rights of Women and Accountability: Global Movements” International Symposium “Thinking of Women in the Era of War and Violence”, Seoul, South Korea, August 14, 2015

5. 宮城晴美 「沖縄における「軍隊と性」女性・戦争・人権学会 2015 年度研究大会「侵略戦争・植民地支配・ジェンダー：敗戦 70 年を考える」、同志社大学今出川校地、京都市、京都府、2015 年 10 月 25 日。

[図書](計 7 件)

1. 秋林こずえ「第八部第三章 軍事主義と性暴力」544-559、沖縄県教育委員会『沖縄県史 各論篇 8 女性史』、総ページ 650、2016 年 3 月。
2. 秋林こずえ「法による人権侵害と暴力」141-164、『沖縄から問う日本の安全保障』岩波書店、総ページ 320、2015 年 4 月。
3. 宮城晴美 『沖縄県史 各論編 6 沖縄戦』沖縄県教育委員会、総ページ 824、2017 年 3 月
4. 宮城晴美「沖縄で教える、考える「慰安婦」問題」歴史学研究会・日本史研究会編『「慰安婦」問題を / から考える 軍事性暴力と日常世界』岩波書店、2014 年 11 月。
5. 宮城晴美「総論 沖縄女性にとっての近現代史」3-14、沖縄県教育委員会『沖縄県史 各論篇 8 女性史』、総ページ 650 2016 年 3 月。
6. 宮城晴美「第二部第三章「家制度」の導入と「良妻賢母教育」」104-121、沖縄県教育委員会『沖縄県史 各論篇 8 女性史』、総ページ 650、2016 年 3 月。
7. 宮城晴美「第八部第一章 「国際婦人年と「うない」の再発見」513-528、沖縄県教育委員会『沖縄県史 各論篇 8 女性史』、総ページ 650、2016 年 3 月。

[産業財産権]

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

秋林 こずえ (AKIBAYASHI Kozue)  
同志社大学・グローバル・スタディーズ研  
究科・教授  
研究者番号：90377010

##### (2) 研究分担者

宮城 はるみ (MIYAGI Harumi)  
琉球大学・グローバル教育支援機構・非常  
勤講師  
研究者番号：80618786

##### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：

##### (4) 研究協力者

( )